

思っていたのと大違いだったけど最高の韓国旅行

「夏にどっか、旅行行こうっか。子どもたちもいないし。」そんな乗りで、旅行のパンフレットを手にしたのが今回の旅行の始まりであった。「沖縄、東京、いや海外もいいなあ。」夏休み企画のパンフレットを見ながら、「思い切って海外に行こうか。」という方向に決まりました。海外旅行で安くて手軽と言えば、やっぱり韓国。妻が一度仕事の仲間と行ったこともあり、それで決まりました。海外旅行専門のHISから、資料を取り寄せ、ツアーの検討に入りました。行く日は、8月1日から3日の金、土、日。これに合うツアーを探しました。中一日はチャングムのロケ地巡りとなりました。チャングムはテレビでやった時は土曜日の深夜で起きていられず、私は、なんとなくの情景しかわかりませんでした、行ってみようということにしました。

旅行業者の泊出さんの所に相談に行くと、細部まできちんと相談に乗ってくれて、安心して計画を立てることができました。ソウル函館便は金曜日の出発はないので、新千歳発にして、帰りは函館に戻ってくるようにしました。出発日は午後の便、帰りは、お昼に函館着ということで、正味は中一日勝負というところです。

パスポートもずいぶん面倒で、お金もかかるってことがわかりました。昔は渡島支庁だったのですが、今は北斗市役所(本庁)に申請に行きました。写真はデジカメで撮影したのですが、通らない可能性ありということで、写真屋さんで取り直しました。

あと大きなものと言えばボストンバッグ。

新品を買うまでもなく、いつものようにリサイクルショップを周り、オフハウスでゲットしました。今でもオフハウスの買い物シールが貼ってありますから、いい目印でした。

出発

新千歳空港へ昼までに行くということで、JRで行くことにしました。渡島大野まではしんわタクシーそして、ローカル線で函館へ。最近何回かJRを使っているの、渡島大野駅もちょっと身近になりました。



函館駅でそばをすすってスーパー北斗により南千歳までです。夏の観光時期でもあり、アナウンスによると自由席は相当に混んでいるようです。南千歳で降り、降りたホーム向かい側にほどなく電車が来ました。それに乗って一区间。トンネルに入ったと思うとすぐ空港です。まわりはあちらもこちらもスーツケース、そして旅慣れたビジネスマンって感じです。

空港についてすぐ両換所が目に入りました。ネットで下調べをした通りです。そこで7万円をウォンに換えました。だいたい

1万円で、9千ウォン。だから、だいたいの換算として、0をとって(1000円だったら10000ウォン)計算して、それよりもちょっと高いかなって目安がつかず。10000ウォンのお札がどっさりになってちょっとお金持ちになった気分です。あと1000ウォン札、5000ウォン札があり、それぞれ100円玉、500円玉のイメージです。



それをすませて、旅行会社のカウンターに行きました。私たちはHISに頼みましたが、旅行総研というカウンターであちこちの海外旅行を扱っているようです。そこで、航空券をもらい、詳しく説明を受けて、2階の出国カウンターに行きました。

まず、荷物を預けます。中を全部調べるとかと思ったら、国内と全く同じチェックです。その後は、出国審査です。何か聞かれたら「サイトシーイング」と思っていました。何も聞かれずに、パスポートにはんこが押され、ここも無事通過です。なんかあっけないなあという感じもありました。

そして、出発ロビーで2時間近く待ちました。ロビーは人であふれていました。それも韓国語ばかり。「おお、ここは日本じゃないな。」って雰囲気です。日本を旅行した人たちが帰国するのでしょうか。小銭を使

い切るのか、売店の日本のチョコレートを買いまくっていた人もいました。韓国行きの貸し切り便が2便出発するといく分ロビーは空きました。2時過ぎの出発で30分くらい前に、飛行機に搭乗です。水色の大韓航空の飛行機です。



飛行機は、日本のと全く変わりありません。書いている文字やアナウンスがハングルであるくらいです。国内と同じように、酸素マスクが降りてきたらとか、外へ脱出するときは、と説明が続きます。韓国語、英語、そして日本語でもアナウンスがあります。外国人が話す日本語だなあっていうのはわかりますが、とてもわかりやすい発音です。だいぶ満席に近い状態ではありましたが、私たちの隣の中央の三列など、一部空いているところもありました。

飛行機が安定飛行にはいると、昼食が出ました。飛行機で食事ができるのは初めてです。「chicken or fish?」と聞いてきましたので、肉の方をいただきました。煮込んだ鶏肉に白ごはん、パンとバター、ゼリー、サラダ、ミネラルウォーターでした。ご飯は温かくとってもおいしかったです。飲み物はオレンジジュースをいただきました。

飛行機は日本海沿岸に沿って飛び、佐渡島、能登半島を左に見た後、半島を横切り

ソウルの仁川国際空港に向かいます。モニターには、飛行機がどのへんを飛んでいるかが映し出されますので、「あれが、能登半島かな。」などということが予想つきます。

雲の間から私にとって初めて見る異国の地。緑があって、道路が走っているというのは、日本と同じだったのですが、妙に目につくのが高層の建物。山の中に、いくつものトゲが出ているという感じです。



ほどなく、「当機はまもなく仁川国際空港に着陸します。」ということで、無事着陸しました。

飛行機を降りた時に、驚いたことが一つ。読んだ新聞が床に無造作に捨てられている。使ったイヤホンもそのへんにポン。「おいおい、せめて椅子の上にたたんでおいていけよ。」って感じでした。これももしかして文化の違いなのかなあと思いました。

韓国到着

飛行機を降りると、そこは真新しい空港。できてまだ数年で、新しさは函館空港も負けません。モアイ像みたいな石像が並んで歓迎してくれる中、みんなの後を付いていきました。どの表示も韓国語、英語、そして日本語で書いているため、迷うことはありませんでした。入国審査のところ、「韓



国人」、「外国人」とありましたが、ちょっと迷って、「ぼくらはここでは外国人だったんだ。」とわかり、通過しました。ここも何も聞かれることなく、パスポートにはんこが押されました。

次は、預けた荷物の受け取り。これも日本と全く同じように、ベルトコンベアーで自分の荷物が来るのを待ちます。預けたのは例のシールの貼ったスーツケース一つです。それを目印に、無事見つけました。引き替え証を確認して、外にですが、係の確認は、なし。「え、これでいいの？」人を持って行く人なんかいないんだなあと思って納得することに。



さて、どんなメンバーでこれから旅行をすることになるのでしょうか。目印の「世界発見」の掲示を探します。

3日間お世話いただいたキムミエとの出会い

荷物を引いて出口に行くと、出迎えの人がいっぱいいました。私たちを出迎えてくれるのは...、とっていると、「ササキさんですか。」と声をかけられました。キムさんでした。「ほかの皆さんは??」という状態でしたが、私たち二人だけのガイドさんでした。バスで大人数で乗り込んでいくことばかりを予想していただけあって、「いいの?ガイドさん占有してしまっ。」という感じでした。



空港を出るとすぐにワゴン車がやってきて、運転手さんとキムさん、そして私たち二人の4人の旅が始まりました。仁川国際空港とソウル市内は、高速道路を使って1時間半位だから、札幌と新千歳ぐらいの距離はあると思います。空港を出て海沿いの高速道路を一直線に走ります。反対側には高層マンションが建ち並んでいます。鉄道も平行して走っています。

車の中では、ツアーのう合わせです。「どなたを回りたいですか。」妻は一度行ったことがあるので、ちょっと何となくは韓国はわかるかもしれませんが、私は、何もわかりません。パンフレットも本もあんまり見ていません。「見れるところ見れ

ばいいさ。」ぐらいに考えていたもので、全てお任せです。天気が悪いので、タワーをキャンセルして、ショーを見ることにしました。そして、韓国で有名なあかこすりと、宮殿を見ることになりました。



ツアーで決まっている食事、チャングム、免税店などは、必ず行くことになっているようです。あとは、お客さんの要望を聞きながら、ソウルを楽しめるように自由にツアーを組み直してくれます。個人ツアーなれではという感じです。私たちは、夕食のあと、NANTA というお料理ショーがとってもお勧めで、それを見に行くことにしました。決まると、すぐに携帯電話で、予約を入れてチケットを取ってくれます。「一番後ろの席なんですけれど」と言いながらもしっかりチケットを取ってくれました。

さて、車はソウルの町に近づいてきました。左右には高層マンション。そして、建設中のマンション、ビルディング。ソウルはまだ開発途上という感じです。国会議事堂、大企業の社屋、など都心部へ向かって進んでいきました。

ソウルは日本の東京よりせまいところで、1千万人以上が住んでいるというので、人口密度はかなり高い状態です。また、ソウルでは大きな地震がないということで、住

宅はマンションが多いということです。あちらにもこちらにも超高層マンション群が立ち並び、その建設は今も進んでいました。

ソウルは日本の京都のようなところ、浅草のようなところ、上野のアメ横のようなところがあるなどと教えてくれましたが、キムさんはまだ一度も日本に行ったことがないそうです。ガイド業は夏の間は超多忙スケジュールだそうですが、是非一度日本に来て、日本の良いところをたくさん見て、肌で感じて行ってほしいですね。

さて、車窓から外を見ると、車は右側通行。日本とは逆です。ですから、慣れるまでは、駐車場から乗り込む時はどうしても、車の左側に回って「あれ、ドアがないぞ」という感じでした。車は見たところ、ほとんどが国産車。韓国の車です。Hyundai「現代」社製の車がほとんどで、日本のホンダのマークのHが斜めになったようなものがマークです。見たところあちらにもこちらにもそのマークのついた車両がありました。軽四は一台も見ませんでした。乗用車はいずれも、中型、大型車でした。韓国のガソリンは、日本よりも価格が高いとのことですが、韓国人は車はお金をかけていました。

会社は、一流企業だと自社ビルを持っており、それも高層ビルです。会社も貧富の差が相当に大きいようです。

高速道路は、ほとんどが片側でも4斜線以上で、片側8車線の道路もありました。聞くところによると、ソウルは北朝鮮までは、車で一時間ぐらいの所に位置しているため、万が一の時には、道路が飛行機の滑走路になるようにとも設計されているそうです。

バスには乗りませんでした。バスは赤、

青、黄色など何色かに系統別に分けられていて、とてもわかりやすい仕組みになっていました。路線バスもそこそこお客さんは乗っていました。あと、観光バスもハンゲル、英語、日本語で旅行会社の名前が書かれたのが走っていました。

運転は、一般的に標識があっても日本よりあいまい、割り込みあり、車間距離短しで、結構交通事故は多いんじゃないかと思いました。旅行中では、警察にお世話になっている車、事故を起こしている車は、2、3度見かけた程度でした。

韓国には東西南北に大きな門がある（あった）ようですが、この間、老人の放火により消失したのもそうですが、その昔、朝鮮出兵により焼き払われた門もあるということです。豊臣秀吉の地代ですから遠い昔とは言え、日本人として、ちょっと恥ずかしく、顔をあげられないような話もありました。

韓国のお国事情などを聞きながら、夕食のレストランに向かいました。

夕食

韓国で初めての食事。午後6時半少し前でした。骨付きカルビでした。



キムさんが、お店の人とお話をし、店員さ

んが席に案内してくれました。小上がりは板の間に座布団。日本だったら畳というところでしょうが。



店員さんが、真っ赤になった炭を持ってきて、その上に鉄板を置いて、ニンニク、肉を乗せて焼いてくれます。肉をはさみでちょきちょき切り、ほどよい大きさにしてくれます。レタスのような葉に肉や野菜（もやしとにんじんのおひたしみたいなもの）それに唐辛子のようなものを乗せ、巻いて食べます。キムチもしっかりついていました。あと、おいしかったのは大根を薄く切った酢漬け。おかわりしました。

肉を持ってくる時に店員さんが「お飲み物はいかがしますか。ベツバライです。」と日本語で聞いてきます。ウーロン茶を頼むことにしました。韓国の水道の水は原則飲まない方が良く聞いていました。3000ウォン。0をとって300円ちょっと。これは観光地価格だなあと思いながら、ウーロン茶の小さな缶をグラスにあげ、乾杯です。

キムさんは、私たちが席に着くと写真を撮ってくれました。優しい心遣いです。「食べている間どうしてるんですか。」と聞くと「運転手さんとデートしている。」って話していました。どの場所でも私たちが楽しんで

でいる間、ずっと待っててくれるんですね。

レストランで笑いが止まらなかったのは、この後。肉や野菜、豆腐など全部食べて、「おいしかったね。」と行った頃に、白いご飯が金属製のふたのついた入れ物で出てきました。もうおかずはありません。しかたがないので、焼き肉のたれをかけて食べました。さらに笑ったのが、ご飯を食べ終わった後に、みそ汁が出てきました。日本の味噌とはちょっと違うなあと思いながら、それもいただいて、食事はおわり。ご飯や味噌汁はそういう風習なようですので、お酒を飲まない人は、一緒に下さいと言うことを初めから伝えておいた方がいいようです。

それと、韓国には割り箸はありません。資源保護の関係からか、全て金属の箸です。これは割り箸に慣れている私たち日本人にとっては、感心と納得です。

食事の分は、キムさんが現金払いしているようです。日本だったらクーポンなどでやるところでしょうが、これからの観光地や施設なども全て現金でやっていました。かかる分が旅行会社から予め、渡されているのでしょ。

私たちも韓国で初めての支払い6000ウォンを支払ってお店を後にしました。

食事の量はさほど多くもなく、(おかわりもできるとのことでした)味もまずまずだったかと思います。見たところ一番高い食材と言えは肉かなというぐらいの食事でも韓国気分を味わうことができました。

免税店

再び車に乗り込み、免税店に向かいました。免税店何カ所かは、コースに入ってい

て必ず行かなければならないということでした。キムさんに「買う時、これを見せてね。」とカードを渡されました。ガイドさんのポイントになるのでしょうか。

韓国で今もっとも人気のある BB クリームが安価で買えるということで、それと、あとは顔のパックを買っていました。私はただ見るだけでした。

NANTA

これが私は韓国で一番おもしろかった。キムさんの是非のお勧めということで、お料理のショーを見に行きました。劇場は日本の映画館と同じ感じ。一つのビルにいくつもの会場があるという感じ。開始時刻が間近だったこともあって500位はありそうな席が、いろんな顔の外国人でいっぱい。



最初にアナウンスが、ハングル、英語、日本語、中国語で表示されます。それが終わるといよいよ開幕です。

NANTA は、お料理ショーと書きましたが、フライパンや鍋、ざるなど5人の出演者が全て楽器にしてしまい、鮮やかなリズムを刻みます。また、本物のキャベツやにんじんを見事な包丁さばきでいきます。

時には会場のお客さんもステージに駆り出され、一緒に演技をするはめに。また、

拍手や声援など会場と一体になったショーです。言葉はほとんどなく、全て演技でストーリーは理解できます。大人から子どもまで、韓国人から、日本人、世界のあらゆる国の人でも一緒に楽しめるすてきなショーです。60000ウォン位で、ちょっと高めかなあとも思いますが、なかなか国内では見ることはできないものです。一度は見ておきたいものの一つかなと思います。キムさんの話によると、これよりさらにアクションのすごいジャンプというものもあるとのこと、今度は是非そちらにも行きたいと思います。



午後8時から始まったショーも終わって9時半頃。終わりのタイミングに合わせてキムさんが迎えに来てくれて、さらに韓国の夜の旅は続きます。外に出ると外は、雨模様になっていました。

眠らない町ソウル

この日の最後は、ソウル中心部のデパート。私は、もうとっくに寝る時間を過ぎていたので、もうねむねむ状態です。

デパートに入る前に繁華街を通りました。広場には露店が所狭しとびっしり並んでいました。キムさんが言うには、今は暑いので衛生状態もあまりよくないので、食べな

い方がいいということでした。



さて、着いたデパートは地下1階から3階、4階ぐらまであり、超高層ビルの下部分が店舗になっています。デパートと言っても、テナントがたくさん入っていて、ほとんどが服やアクセサリ売り場。私にはあまり関係ないものばかりです。妻は目を輝かせて服を手にして、私はその後をついて歩くだけ。売り場の雰囲気は日本と全く同じって感じ。単位がウォンになっている位。日本もそうかもしれないけど、韓国もハデハデが若者向きなのかもしれません。

私が驚いたのは、店で何が売っているかっていうことよりも、どうして夜の10時を回っているのに、こんなに人がいるのかっていうぐらい、若者を中心に人がいること。袖がふれ合うようにすれ違うぐらいです。さらに驚いたのは、小学生位と思われる子どもたちも、あちらこちらで見かけたことです。韓国の学校も8月後半までは夏休みということですが、「10時を過ぎてまで子どもを連れて歩くのはけしからん。」と思うのは日本だけの常識っていうか、文化なんでしょうかね。

疲れたので、入口にあった、ファーストフードコーナーみたいなところで、ジュースとパンを買って小休止。メニューはハン

グルと英語で書いてあったので、大丈夫でした。「買い物もなんとかなるさ。」っていうのがちょっと感じた時でした。



やっとホテルに到着

午後11時を回ってやっとホテルに着きました。ツアーの申込みをした時、一ランクいいのにして、ソウルの中心部のクラウンホテルにしました。日本のビジネスホテルクラスかと思います。ソウルで一番いいのがロッセホテルだそうで、そこはホテルもいいけど料金もかなりいいということです。

ホテルに着くと、キムさんが全部手続きをしてくれます。鍵を渡して、説明をしてくれて、今日はここでお別れです。傘がないということで、私たちハデハデの古い折りたたみ傘を貸してあげました。次の日に聞くには、家(ソウルの中心部からけっこうあるそうです)に帰るのにタクシーが拾えず、バスで帰って、ついたのはだいぶ遅かったそうです。時間外の仕事になったのでしょうが、私たちにソウルを満喫してもらうために夜遅くまで、案内をしてくれて、本当に感謝です。

さて、ホテルは9階建て。私たちは最上階の部屋でした。8階までエレベーターが

あって、そこから階段でワンフロア上がります。

部屋はバストイレ付き。ダブルベッドとシングルベッドがありました。二人で泊まるには十分ぐらいの広さでした。この日はシャワーを浴びてバタンキューです。

早朝の明洞



朝はやっぱり5時には目が覚めます。小雨が降っていましたが、二人で朝の散歩です。さすがにゴミ袋と火ばさみはありませんでしたが。ホテルは都心にあるのですが、ホテルの前の道路はさほど広くなく、小さな商店がならんでいるという感じでした。食べ物屋、服屋、雑貨屋、魚屋、おみやげ屋、そして通りの一本裏は居酒屋っていう感じです。文字が全てハングル（漢字は固有名詞に使う、あとほとんどの標記はハングルのみ）ですので、ショーウィンドーや店の前の物がなければ、何屋さんかわからない位です。「韓国の人は夜が遅いので朝は遅い」という話を聞いていましたが、早くから開けている店もありました。

小道に入っていくと、車がすれ違えないぐらいの細さです。そこに住宅（長屋みたいな）があって、郵便受けが出ていたりし

ます。煉瓦づくりの一階建てっていうのが韓国情緒を感じさせます。あと屋根は瓦で、トタンはありません。



広い道に出ると雑貨屋さんがやっていました。アイスクリームのケースをのぞくと、日本より安い値段でキャンディーが売られていました。

コンビニもあり、このへんも日本と変わりないところです。



ちょっと歩くと、すばらしい門がありました。門と言っても高さが二十メートルもありそうな門です。近くまでいくと見学料などが書かれてありましたので、観光地だということがわかります。あとでわかったのですが、ここが王室の離宮で昌徳宮でその日見学する場所でした。

そこを左に折れていくと、ガソリンスタンド、会社のビル、バス停、日本文化会館

(だったかな)などがありました。更に左に曲がると、日本で言う武家屋敷風の建物もありました。そして、ホテルからグラウンドが見えた公立小学校も見えました。とても立派な建物でした。バイクに大きなリアカーがついているのも韓国風でした。後からつけたというよりも、最初からリアカー付きのバイクっていうところです。



そこまでいくと、ホテルが見えてきて、安心して、一区画を一周の小雨の朝の散歩は終わりました。

出発は8時20分の約束なので、テレビをつけてみました。衛星テレビもあるのでしょいか。70チャンネル以上はありました。こんなたくさんのチャンネルは日本でも見たことがありませんので、比較できませんが、7時前だというのに、ニュースあり、バラエティーあり、マンガあり、ワイドショー的なものあり、教育テレビあり、スポーツ番組あり、とないものはないぐらいの内容でした。きっと日本と同じなんでしょうね。やったーと思ったのは懐かしい日本語の放送があったことです80チャンネルはNHKの放送が流れています。天気予報があったので、見ると韓国は雲がかかっています。だんだんアップにしていくと画面から外れてしまいました。当たり前です

けどね。さあ、今日はチャングムです。

朝はお粥

時間ちょっと前にはキムさんが迎えに来てくれました。小雨の中、まずは朝食です。ホテルからほど近いルーム201というレストランでお粥の朝食です。看板には「本物のアワビ入り」と日本語で看板がありました。韓国でもお粥はよく食べるそうです。



このレストラン、昔はホテルだったそうで、そのスイートルーム201号室をそのまま使っているということでこの名前がついた



そうです。私たちの食事をしたとなりに大きなダブルベッドとぬいぐるみたちがありました。なんとも妙な取り合わせですが、ここで食事をしました。でもベッドがあるだけで、あとは普通のレストランという感じで、隣も向こうも日本人という雰囲気です

した。

韓国の食事は言葉が適切かどうかわかりませんが、質素です。お粥にキムチ、野菜がちょっとついただけで、とてもヘルシーと言えます。おなかいっぱい食べたい方には量も内容も不足かもしれませんが、ダイエット中の私たちにとっては、適量、適種類といったところです。

チャングムのロケ地へ

車は雨が降ったり止んだりする中、一時間半ほどかけて、チャングムのロケ地へ向かいました。

途中、軍隊の基地などが何カ所か見えました。韓国は徴兵制があり、全ての男子は20歳を過ぎたら、何年か軍に入る義務があります。ニート、引きこもり、いじめなど子ども社会でも様々な課題がある中、もし日本もこういう制度があったら違っていたのかななどとも思いました。でも後から笑っちゃったのは、帰りに町中で、実際にデモの警備をやっていた兵隊さんたち、誰も通らなくて暇なのか、鉄砲を向け合っ、じゃれていました。やっぱり子ども？銃を持たせて大丈夫？って感じでした。

細い道を走り抜け、農家地帯を進むとどうやら着いたようです。やっぱり小雨が降っていました。とっても完成な緑いっぱいの公園なのですが、ちょっと向こうには、高層マンションが建ち並ぶというアンマッチな状態でした。

ここはMBCの放送局があって、そこにロケ地として公園を作ったということです。広さはとっても広いというわけではなく、野球のグラウンド1つより少し大きいななあといいところです。そこに宮殿は調理場、

牢、動物の飼育所、一般住民の家などが造られています。

日本のこの手の施設とは違って、「さわらないでください。」「入ってはいけません。」という看板がそんなにありません。

調理の道具や王様の椅子などにも手を触れることができますし、持つこともできます。誰も盗ったりする人はいないってことなんですよね。こういうのが続くといいですね。でも残念なこともありました。柱に記念の一言を書いていたのがやっぱりありました。日本人としてとっても恥ずかしい思いでした。



キムさんは、週に2回は来ているということです。カメラを預けるとたくさん上手に写真をとってくれました。



うちの妻はチャングムの大ファン。キムさんが一言言うと、「あー、わかる。わかる。」

ってツアーです。こうなるとGYAOでチャングムやってたから、もうちょっとかじっておくべきだったかなあと思います。



雨が降ったり止んだりでしたが、天候のせいか、観光客はそれなりにいましたが、静かな雰囲気の中、見学をすることができました。

ツアーの計画では、その日の行動予定はチャングムだけでしたが、十分見てもまだ昼前、ソウルに戻ってもいろいろ午後から見る事ができたのでした。

宮廷料理

ロケ地にも宮廷料理のサンプルが並んでいましたが、料理の数は相当にありました。(20種類ぐらい) 昼はその宮廷料理ということで、ソウルに戻っての食事です。

お店に着くと、さっそく出てきました。全部で12種類。今度はキムさんに頼んでご飯も先に出てきました。やっぱり高めのウーロン茶で乾杯です。肉、唐辛子、こんにゃく?の刺身、レンコン、小エビと野菜、サラダ、キムチ、キュウリの漬物、焼き魚、味噌汁、ごはん、小魚の佃煮です。量があまり多くなかったので、全部食べて腹八部目というところでした。



前の店でも思ったのですが、店員さんの対応は、日本だったら通らないだろうなあというものがありました。ものを持ってきても、置き方が静かでない。何も言わない。仕事がないと、店員同士おしゃべりしているというところあたりは、改善が必要かと思うところです。

免税店へ

食後、すぐ近くの免税店に行きました。「お安くします。」「4使うと にします。」「これもつけます。」というように、売り込みはけっこう激しかったです。韓国の小さい人形を買ってきました。

続いて超高級ブランド店

山の道を登っていくと、超一流のホテル。ベルボーイさんが、お客様を迎えています。その隣に、高級ブランド品の免税店があります。グッチ、シャネルなど(2つしか思い出せない)世界の一流ブランド品ばかりの店でした。もちろん私にとっては、「猫に小判」そのもの。落とすお金0で出発。わかる人にとっては、ここぞとばかり買い物が始まる人もいるんでしょうね。ねらっている物がある人は、しっかり日本での価格を調査してから買いましょう。

青瓦台

宮殿の見学時間が2時半ということで、まだちょっと時間があるということで急ぎょ青瓦台に案内してくれることになりました。そこで記念撮影をすることになりました。

青瓦台は、韓国の大統領府で、少し前までは、近寄るのはもちろん、写真撮影などしようものなら、カメラを没収されるという状態だったそうですが、今は警備こそしっかりしていますが、写真も自由に撮ることができます。



青瓦台に近づくとパトカーと何台も出会います。検問もあって止められましたが、「日本人の観光に」というと、中を調べられることもなく、フリーパスでした。

青瓦台の門の前に来ると緑の芝生、美しい石畳の道。そしてあちらこちらに警察車両。他と雰囲気が違うのは一目瞭然です。ここで記念写真を数枚撮って、宮殿へ向かいます。

青瓦台という名前は、大統領の執務室の屋根の瓦が青いことからついた名前です。最初はソウルオリンピックの聖火台だとばかり思っていました。その頃、青空とまではいかなくても、雨があがっていました。

昌徳宮

「ここ、朝来たよ。」という昌徳宮に着きました。昔の王朝の離宮として建てられ、つい数十年前まで一部は居住していたということです。



日本で言う京都の感じで観光の定番になっているようで、全て昌徳宮のガイドさんが案内をしてくれます。2時半は日本人の(日本語の)ガイドで、周りは日本語ばかりで、ちょっと一安心した気持ちになり、そろそろ100名以上のご一行様ということでガイドさんについていきました。頭の中で行く前にイメージしていたのはこんな感じでした。

赤を基調に、赤、緑、黄色、青の原色で美しく彩られた建物は、当時に建てられたままとのことですが見事な美しさを誇っていました。色は褪せてくるため、塗り直しているからということです。

広さは、けっこう坂を登ったり歩いたりしましたが、それもほんの一部ということで、たぶん四季の杜公園ぐらいいはあるのではないかと思います。

昔は冬の暖房はどうしていたと思います？ソウルの気候は東京とだいたい同じということですが、冬には雪がふるそうです。

やはり暖房なしではつらいようです。宮殿ではオンドルという暖房設備を使っていました。床下で、薪を燃やして部屋を暖める。いわば床下暖房です。居住区には、暖房のある部屋とない部屋、広い部屋、狭い部屋があり、格差はあるものだと思います。

王宮へ進む道も高さが何段かになっていて、位の高い所は一段高いところを歩くというようなところもありました。

王宮の執務室、居住場所、図書室、離れなどを見学、池の前で小休止です。売店に見かけたことのある青い缶。ポカリスエットがありました。700ウォン。小銭でおつりが来ました。これは日本では100円ですから確かに安いですね。観光地価格になってないところがあります。



お日様こそありませんでしたが、緑に囲まれた坂道を登っていくところでは、きっと晴れていたら最高の涼むところだろうなあと思いました。蝉の声あり、小川の流れる音ありでとても雰囲気のあるところでした。

明洞の市場

明洞の市場は、昌徳宮のすぐ近く。言い換えれば、なんと私たちのホテルから歩い

て5分もたたないところにありました。

雰囲気はあめ横、原宿の竹下通りってところでしょうか。歩行者天国の細い石畳の道路の両端に小さな店がたくさん並んでいます。ソフトクリーム屋、おみやげ屋、陶芸屋、駄菓子や、食べ物屋、服屋、アクセサリー屋、など現地の人であふれていました。雨はあがっていたので、良かったです。ここで小一時間の自由タイムです。



さっそく行列ができていたところがありました。何だろうと思って近寄ってみるとアイスクリーム屋さんです。伸びるアイスっていうんですか。へらで盛りつけてくれます。2000ウォン、200円ぐらいです。アイスを口にしながら、進んでいきました。



子どもたちが集まっているところがありました。駄菓子屋さんです。3つで1000ウォンというのが店前に並んでいました。

「よし、これだ。」と思って、3つずつ8種類買いました。何が当たるかわからないけど子どもたちのおみやげにすることにしました。

おいしそうなフルーツパフェみたいなお店の看板を見て、パチリ。「行ってみる？」と思ったけど、時間がなくて、今回はパス。ところが後で夜、もう一度来て、思い出話ことができました。



店の両側をぶらっと散策し終わった頃、再び雨が降ってきました。キムさんが迎えに来てくれて、食事。そしてアカこすりです。

夕食はブルコギ

市内のレストランに案内されました。



食事はブルコギ、焼き肉です。前日のカルビーのように、肉を乗せ、はさみで切ってくれます。ニンニク、キャベツも一緒に載

せます。鍋はジンギスカンの鍋で出てきた汁が下にたまるようになっています。柔らかくておいしい肉でした。後は、カルビーの時と同じような内容でした。ご飯も先に出てきました。ボンと投げるようになっていのに近い置き方でしたが。

いよいよエステ

「あかこすりに一万円近くかー。」とは思いますが、何事経験ということで、全然似合わないエステに朝鮮しました。土曜日だけ合っとなかなか混んでいるということで、評判がよくて空いているところをキムさんが、予約してくれていました。

ここでしばし、私一人の時間になります。中に入るとまず、「こちらへどうぞ。ご説明いたします。」とちょっと韓国風の日本語で説明をしてもらいました。全身マッサージとか、足の裏マッサージとかいろいろオプションを説明されましたが、「基本コースでけっこうです。」とお断りするとそれ以上は勧めてきませんでした。9番の番号札が渡され、「お風呂に呼びに行きますので、番号が呼ばれるまでお風呂に入ってください。」と言われ、服を脱いでお風呂で待ちます。先客は、2、3人いました。さほど混んでいません。銭湯のくらいのお風呂が二つと、よもぎサウナ(高温)、水晶のサウナ(低温)と、あと一つサウナがありました。サウナに通り入りましたが、いつ呼ばれるかわからないので、お風呂の周りにいた時間が長かったです。

「9番の方どうぞ。」と呼ばれると、台に上がります。大事なところはタオルをかけてくれます。タオルで体をゴシゴシこすってくれます。「うつぶせになってくださー

い。」「よこむきになってくださーい。」「はい、つぎはあおむけです。」ってな具合に体中こすってくれます。キムさんに「強かったら、言っていないですよ、」と言われましたが、そんなに強くこするでもなく、もっと力を入れてもいいというぐらいでした。体中をこすると、オイルマッサージです。体に塗って、首とか背中をマッサージしてくれます。けっこう気持ちよかったです。最後に頭を洗ってくれました。およそ30分エステしてもらって、おしまい。足のかかとのオプションを勧められましたけれど、ここも「いりません。」で通しました。



風呂を上がると妻の方がまだ終わっていないということで、(女性の方はパックもつくそうです)待合室に通されました。そこはNHKのテレビがかかっている、しばし休憩です。

15分ぐらい待って、再び合流です。お互いの肌をすべすべでなであいました。

韓国風かき氷

ホテルに着いたのは7時頃。明日の待ち合わせは午前6時30分。今日は早めの到着です。眠かったけど、お出かけの絶好のチャンス。雨はだいぶ強かったけど、傘をさして、つい先ほど行った明洞の市場へもう一度行きました。大きな道路を渡って、セブンイレブンの前を通れば、5分ほどで、通りに出ます。

8時頃だったので、もうだいぶお店は閉まっています。例の眠らないデパートとはだいぶ違いますね。雨が降って分かったのですが、石畳みの道はかなりのでこぼこ。あちらこちらに大きな水たまり。小さな池ぐらいの大きさのもありました。日本だったら絶対検査に合格しないだろうなあという道でした。ゴミはたくさん落ちていましたが、清掃の係でしょうか、大きなほうきとちりとりそしてごみ袋できれいにしていました。

ゴミのことをちょっと話すと、冒頭の飛行機の中の後始末にもありますが、ちょっと町中のゴミは多いという印象です。朝散歩していても街の中心街であっても、あちらこちらに紙くずが落ちていたり、店のゴミがうずたかく積み上げられたりしています。毎朝ゴミ拾いを日課としている自称ゴミ拾い評論家としては、もうちょっとみんなで街をきれいにしようという意識が高まればもっとソウルもきれいになるのになあということを感じました。

さて、歩いていくと先ほどのフルーツ盛り合わせの看板の所にたどりつきました。店は2階のようです。どんな店か、言葉は通じるか、不安もありましたが、何回かガイドさんなしで買い物もできていたし、そ

こは夫婦の力を合わせれば乗り越えられるということで、入って行きました。2階に上がると、若者のカップルがほとんどで満



員状態に近いお店でした。店に入って、「トゥー」と指を出すとウエイトレスさんが、席に案内してくれました。メニューがでてきます。外国人ということがわかったのでしょうか。韓国語のメニューと一緒に日本語のメニューもおいていってくれました。「フルーツ盛り合わせ...、キュウイ...」思っていた物がありません。どうみてもフルーツミックスジュースでもなさそうです。そうこうしているうちに若い高校生ぐらいのウエイトレスさんが注文を取りにやってきました。最初に日本語で話してみましたがダメ。そんじゃ英語ではということで、「店の前で見たフルーツいっぱいのパフェみたいのはどれですか。」って聞いても、ニコツとしながら、首をかしげるばかり。身振り手振りでやってもどうも、コミュニケーションがとれませんでした。「そんじゃあ、しかたがない」ということで、妻は緑茶パフェみたいの、私は韓国かき氷を注文しました。ウエイトレスさんは、日本語で指さしたのと韓国語のメニューを見比べて、OKと言ってニコツとして戻って行きました。向いのカップルは、おかきのようなおもち

のようなのを食べながら、至近距離でおしゃべりをしています。「あれ、何だろうね。食べてみたいね。」なんて周りをみまわしていました。



しばらくすると注文していたものが来ました。緑茶にクリームが乗ったの、そして、なんと私がイメージしていたフルーツの盛り合わせが来ました。これが韓国風かき氷だったんですね。それにあのおもちのようなものもついてきました。お通しなのか、緑茶についてきたのか、聞こうとも思いましたがまたややこしくなりそうなので、やめました。思っていたものが、ちゃんとも届いたので、二人で大笑いしながら、食べました。とってもおいしかったです。どっちとも7500ウォン。750円でした。すてきなカップルをいっぱい見たのと、思った物が食べることができたという、そんなホットな気分になって、どしゃぶりの雨の中、ホテルに戻りました。もう靴の中はびしょびしょ、もちろん、靴下も、そしてずぼんもびしょぬれでしたが、靴はタオルを入れて、次の日は早いので、寝ました。

いよいよキムさんとお別れ

次の日は、前の日の雨があがって、まずまずの天気。6時半にキムさんが迎えに来

てくれました。相当の早起きをして来てくださったことになりす。車は一路空港へ、ですが、最後の免税店に寄ることになっています。金浦空港の近くに朝早くからやっている店があって、そこに案内されました。椅子に座らされて、さっそくキムチの試食と説明です。そこではチヂミ（日本のお好み焼きとピザ）の合わさったようなものを冷凍したものを3個。そして、おみやげ用の冬のソナタチョコレートを買って、車に乗り込みました。おみやげが増えて、スーツケースには入りきれないので、入れてくれたトートバッグみたいな袋でそのまま飛行機に預けることにしました。

再び高速道路をいき、遠くに飛行機が見えたかと思うと仁川国際空港に到着です。その頃は天候は日差しがまぶしいくらいに回復していました。



キムさんが、さっそく航空券を引き替えに行ってくれます。私たちは荷物を預けるところに並んでいました。係の人に「航空券は？」と聞かれたので、「ガイドさんが手続きしています。」と言ったら通してくれました。融通の利く国です。でもキムさん、なかなか戻ってきません。しばらくすると「座席が離ればなれになってしまいました。飛行機の座席状況をみながら一緒に探したん

ですが、二人一緒の所がありませんでした。」と申し訳なさそうに話しました。「いいよ。いいよ。かけあってくれて、ありがとう。」と荷物を預けるところまで進みました。前に並んでいた人が、日本に帰省するのか、荷物は5個も6個も預けています。お金かかるのかなあと考えていたら、「子どもさんがいるので、かからないですよ。」とキムさんが教えてくれました。私たちの番になって、スーツケースと先ほど買ったおみやげを預けました。キムさん、係の人と何か話してくれています。しばらくすると、「隣どうしの座席、取りました。」と取り替えた航空券をくれました。

手荷物検査のところで、「ここでお別れです。18番ゲートからお乗り下さい。また、韓国に来てくださいね。」と言われ、私たちも「3日間、たいへんお世話になりました。」とお礼を言って、手を振ってお別れしました。キムさんは、今日の夕方からまた13人の団体さんのガイドが入るそうで、家に帰る時間もないということなので、空港で一休みというか、時間つぶしをしていることになりそうです。

3日間も案内してもらって、チップも渡さないまま、あっけなくさようならをしまいました。またいつかおみやげを携えて韓国に遊びに行くのが一番のお礼かなあと思っています。その時はジャンプのショーを是非案内してほしいなあと思います。

さようならソウル

手荷物検査をすませると、出国手続きです。ここもパスポートを見て、はんこをおして、何も聞かれずに通過です。まだ飛行機の出発まで1時間以上あるので、ショッ

プを見ながらぶらぶら歩きました。韓国のお金が少し残っていたので、できるだけ使い切ろうというのもありました。私の財布がだいぶ敗れていましたので、それを買うことにしました。自分で買うんだったら、たぶん1000円もしないのを買うんでしょうが、妻が6000円ぐらいのちょっとすてきなを選んでくれたので、それを買うことにしました。今使っている財布です。



そして、あといろんなチョコレートが入っている袋を一つ。韓国のチョコレートは、とうがらしのとか、海苔のとか、栗、やきいものなど、日本ではなかなか見かけないものがありました。

最後のお札で、1000ウォンの一口クッキーみたいのを買って、買い物は全て終わりです。

函館行きの飛行機の案内が、韓国語、英語、日本語で流れます。3日もいたので、韓国語は何を言っているかはわかりませんが、イントネーションは耳に入ってきて、ああ韓国語だなあというのはわかるようになりました。

函館行きの飛行機は、隣のジャンボ機と比べると、大人と子どもという感じでしたが、前に述べたように満席状態でした。



座ると下の方で荷物を機内に運んでいるのが見えます。投げたり乱暴な扱いはしていませんでしたが、コンテナにびっしり積み上げている状態なので、できればスーツケースのような堅いものの方がお勧めだと思います。でも、やわやわのチヂミとチョコレートもつぶれることがなく、届きましたので、壊れるのをあまり気にしなければ、特に海外だから乱暴に扱われるということはないように思いました。



帰りも機内食が出ました。ポテトサラダがはさまったサンドイッチにからしマヨネーズ、ミネラルウォーターに、クッキー一枚です。そういえば朝ご飯は食べてなかったので、ランチ気分でした。これもおいしかったです。それに飲み物はコーヒーをお願いして、いただきました。能登半島が見えて、八郎潟が見えると「あ

あもう少しなんだなあという気持ちです。飛行機の高度が低くなって、がたがた揺れながら真っ白い雲の中をしばらく進みました。次に見えたのは、海に突き出す一本の長い棒。そうです。上磯の日本セメントの工場でした。函館山が見えて、競馬場が見えて、湯の川の温泉街が見えたと思ったら滑走路です。無事着陸です。弱いですが雨が降っているようです。

飛行機は、前の方から降りるので、後ろの方に座っていた私たちは降りるのに時間がかかりましたが、懐かしい函館に降り立ちました。でも国際線なので、いつもとは違って、端っこの方から降りていきます。入国審査のところにはたくさんの方が並んでいました。「日本人はいますか。」と係の人が呼んでいたのが、「はい。」と言うと手招きして、前へ前へ連れて行ってきて、すぐに入国のスタンプを押してもらいました。そうすると、私たち以外はほとんど外国人！ってことだったわけです。荷物を見るとゴルフのバッグがたくさんあったので、韓国人の北海道旅行っていうのもかなりの人気なんだなと思いました。

預けた荷物は、韓国に入る時と同じ。スーツケースと、トートバッグを持って、「間違いありませんね。」「はい。」でノーチェックで通過しました。

無事、家についてもまだ昼下がりに。家でゆっくり休養しました。

夕方に韓国について、朝に出発してくるツアーはちょっと時間的にはもったいなあと思いましたが、キムさんのおかげで思っていた2倍、3倍も楽しむことができた韓国旅行でした。

「今度はどこに行く。」「もう一回韓国が

なあ。」「それとも台北？グアム？、中国？」「ちょっと英語が通じた方がいいなあ。」なんて次の旅行をちょっと頭に描きながら、また、平凡で、それなりに楽しい毎日をごんばって過ごしたいと思います。

お世話になった皆さん、そして今までよりずっと身近になった韓国、ありがとう。

旅のメモ

お金

この時期の旅行代金。2泊3日で、保険などを入れて二人で約20万円。ショーの見学やおみやげなど含めて10万円ぐらい。合計30万円くらいかかりました。

お金の交換は、新千歳空港ですぐに両替ができます。向こうの空港でもすぐだと思えます。私たちはガイドさんに頼んだらすぐその場でしてくれました。持ち合わせは持っているようです。

単位はウォンで、10000ウォンだと110円ぐらい。0を一つとって、それより少し高い位と思えばいいです。物の値段は、日本とだいたい同じぐらいです。ただ、観光地価格っていうのがあるようで、おみやげなどは庶民の店に入ってみるのもいいと思います。

買い物

免税店などは、日本語が通じます。店員さんが日本語で商品を勧めてくれます。支払いは円でもウォンでもドルでもOKなところが多いようです。3つ買うと1つおまけで4つくれるとか、いくつか買うとちょっとしたものをつけてくれるなどというサービス合戦はあります。結構強く勧めてくるので、いるものはいる、いらぬものは

いらないとはっきりしたほうがいいです。

有名なおみやげは、食べ物だったらキムチ、海苔、チョコレート、かぼちゃ飴、ふわふわのわたあめのようなお菓子などをあちらこちらで勧められました。キムチは液体があると持ち帰られない物もあるので確認が必要です。

明洞の市場での買い物の様子は書きましたが、地元の人たちの店でも、値段が書かれているので、言葉が通じなくても、買い物はできます。また、コンビニもあり、品揃えは日本とほぼ同じ。こちらもレジで値段がでますので、大丈夫。必ずレシートもくれます。

免税店ではブランドものがおいてるところがあります。目をつけているものがあったら、日本で品名や型番などをしっかりと調べ、日本の価格をしっかりと頭に入れてから買うのがいいでしょう。旅の太っ腹で買ってそんな価格が変わらないところもあるかも。

ホテルについてから、ぶらぶらと町の中を歩いてみると生の姿が見えたりして、是非、地元のお店に行って、買い物をしてみるといいと思います。

生活用品

日本から絶対持って行かなければならないという物はありませんでした。ホテルにはタオルや歯ブラシもついていました。でも、ホテルによって違うようですので、予め確認しておいた方がいいです。トイレも日本と同じです。観光地やデパートもトイレがあり、マークもあるので迷うことはありません。

生水は、最後まで飲みませんでした。食

堂で出る水は、水道の水がミネラルウォーターかわかりませんが、私たちはウーロン茶にしました。

電源は200ボルトで、変換のトランスを貸してくれるということですが、借りることはありませんでした。電池は、日本と同じでコンビニで買えます。

あと、パックの旅行では、わからないことは全てガイドさんが親切に対応してくれるので、心配することは全くありません。

チップはいりませんが、最後にホテルに10000ウォン(1000円)おいてきました。実はシーツを赤ペンで汚してしまって、赤いシミがついてしまってホテルにごめんなさいというのもありました。

個人のガイドさんなので、日本のおみやげを何か携えていくとお礼になるかと思えます。

服装

日本の東京と同じ位ということですが、行った時は、雨が降ったり止んだりというような天候で、北海道より少し温かいかなあという程度で、汗だらだらという状態ではありませんでした。

着る物も普段のもので十分です。服屋もたくさんありますので、気に入ったものをその場で買うということも考えられます。

出入国

何もめんどろなことを聞かれることはありません。スーツケースも手荷物も中を開けて調べられることはありません。国内もそうですが、液体の規制がありますので、おみやげに水ものは注意です。

それとパスポートの写真は最初からきち

んと写真屋さんで撮ってもらった方がいいです。市役所で受け付けても、道の担当で戻されることがあるそうです。目の模様まではっきりしていなければならないという話です。

預けた荷物は、引き替え証との照合などありません。「間違いないですか。」で終わりです。高価なものは自分の身から離さないのが賢明です。

言葉

全てガイドさん付きなので、全く心配がありません。地元の店でも、値段が書いてあるので、あとは指でいくつか示せば、大丈夫です。

英語を使うことはほとんどありませんでした。また、英語は通じるものだと思います。聞き取れない方がいいと思います。

文字は固有名詞が漢字で書かれていて、あとは全てハングルなので、全く読めませんでした。ハングル文字の歴史は比較的浅く、ローマ字のように合理的に組み合わせされた表音文字ですので、いくらかでも勉強していくと楽しさが広がると思います。アンニョハセオ(こんにちは) カンサスミダ(ありがとう) ぐらい覚えておくとあいさつはできます。

食べ物

食習慣も日本とそんなに変わりません。ブルコギ、骨付きカルビ、宮廷料理など食べましたが、どれも特別な食材はなく、安心して食べることができました。

ただ、韓国ならではの高級料理を食べると意気込んでも、さほど高価と思われる食材はありませんでした。地元ならではの食事というと日本の方がいろいろとある感じでした。

最後に

歩けなくなったらなかなか旅行はつらいものになります。元気なうちに時間とお金は作ってでも、旅行はした方がいいと思います。物を買うとは違ったすてきなお金の使い方だと感じました。

韓国は、時差もなく、食習慣も変わらず、初めていく外国旅行としては、とってもお勧めです。そして、ずっとお世話をしてくれるガイドさんがしっかりサポートしてくれるというありがたさも、旅が最高だった一番の要因であったことも忘れてはいけません。

(佐々木 朗)